



西風

西諫早としょかんだより【No.332】

■ 2025年1月号 ■

スマートフォン用



〒854-0074 諫早市山川町 1-3

諫早市立西諫早図書館

HP: <https://www.libisahaya.nagasaki.jp/>

TEL: 0957(26)8607 FAX: 0957(26)8250

図書館カレンダー (1月)

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

月曜日：定例休館日／第3木曜日：整理休館日

年の初めの運試し！福引き開催！

本を借りてクジを引いて頂くと、何かよいものがあたります♪
景品が無くなり次第終了です

1/5日より
空クジ無し

1/29(水)~1/31(金)は
蔵書点検のため休館します

※休館中の返却は、返却ポストをご利用ください。
※CDやDVD、紙芝居、大型絵本などの壊れやすいものは、1/5日以降にカウンターでご返却ください。



第172回 芥川賞・直木賞 候補作発表！

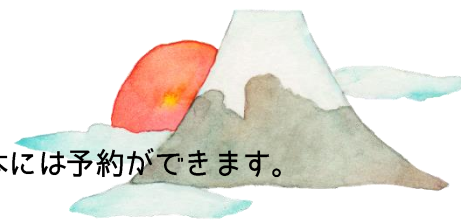
選考会は1/15(水)です

第172回 芥川龍之介賞候補作品

- ・「D'TOPIA (デートピア)」 安堂ホセ 文藝(秋季号)
- ・「ゲーテはすべてを言った」 鈴木結生ゆうい
小説トリッパー(秋季号)
- ・「ダンス」 竹中優子 新潮(11月号)
- ・「字滑り」しすべ 永方佑樹ながえゆうき 文藝(10月号)
- ・「二十四五」にじゅうご 栗代雄介のりしろ 群像(12月号)

第172回 直木三十五賞候補作品

- ・『よむよむかたる』 朝倉かすみ (文藝春秋)
- ・『藍を継ぐ海』あい 伊与原新しん (新潮社)
- ・『飽くなき地景』ちけい 荻堂顕あきら (KADOKAWA)
- ・『秘色の契り』ひそく 木下昌輝まさき (徳間書店)
- ・『虚の伽藍』きよ 月村了衛りょうえ (新潮社)



新着図書

この他にもたくさんあります！貸出中の本には予約ができます。

『101歳、現役の化粧品販売員トモコさんの一生楽しく働く』	堀野智子／著	ダイヤモンド社
『読み解き古代史料』	石上英一ほか／著	山川出版社
『最新子連れ防災 BOOK』	富川万美／著	祥伝社
『ゴリラとオオカミ・ヤギとゾウのお話』	山極壽一ほか／著	今人舎
『シニアの命と財産を守る実家の防犯110のコツ』	梅本正行ほか／監修	ナツメ社
『ペップトーク』	おやのめぐみ／著	中央法規出版
『毎日行きたい文房具店ガイド』	ウェブマガジン『毎日、文房具。』／監修	玄光社
『実家の片づけ親とモメない「話し方」』	渡部亜矢／著	青春出版社
『NHK“朝ドラ”テーマ名曲集』	シンコーミュージック・エンタテイメント	
『五葉のまつり』	今村翔吾／著	新潮社
『坂の中のまち』	中島京子／著	文藝春秋

雑誌リサイクル

2/1(土)より雑誌リサイクルを行います
保存期限切れの雑誌をお譲りします。
どの雑誌がいつ出るかは分かりません。
無くなり次第終了です。

ご希望の雑誌に
出会えますように

認知症サポーター養成講座 in 図書館を開催します

認知症という病気、本人や家族の気持ち、
そして認知症の方への接し方などを学びます。

日時: 2月12日(水) 14時から15時30分

場所: 西諫早公民館 視聴覚室

受講料: 無料

定員: 20名 お申し込みは 西諫早図書館カウンター
またはお電話で 0957(26)8607

お申し込みを
お待ちしております

開館30周年記念イベント

予告です

令和7年3月25日、現在の場所へ開館して
30周年を迎える西諫早図書館
記念イベントを開催予定です！

日時: 3月20日(木)10時30分～

場所: 西諫早図書館&地区センター広場

- ☐ ひとやすみ書店店主 城下康明さん & 元長崎プレス編集長
はしもとゆうきさんによるトークセッション
- ☐ ボランティアのみなさん & 図書館員による絵本の読み語り &
ストーリーテリング
- ☐ 絵本侍さんによる紙芝居
- ☐ 西諫早図書館ホームカミングデー
- ☐ 古本市



などいろいろ盛り沢山！お楽しみに！

今月の展示

2024年に生まれた本



昨年、図書館に迎え入れた本です。
読み逃した本、ありませんか？



読んで感じる世界



見て・読んで
レッツゴー世界旅行！



新年からチャレンジ！



気持ちを新たに、事始めしてみませんか？

図書館員おすすめの一冊

『こだわらない練習「それ、どうでもいい」という過ごし方』

小池龍之介/著 (小学館)

こだわらなければ、無駄な力が抜けて、自然体の自分に戻る。世界から敵がいなくなる。
縛られずにいる軽やかな自由とともに、新たな変化に向けて心を開いていられる。

こだわりを捨て、こんなふう生きられたらどんなにいいでしょうか。

本書は住職でもある著者が、友の有無、他人の期待などへの様々なこだわりを捨て、軽やかに生きる方法を説いています。もしあなたが何かにとらわれ抜け出せない時は、本書を読んでみて下さい。「それ、どうでもいい」と思えるかも知れません。(T)